

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

| 1 教育・保育目標 | 2 重点目標 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策(来年度の具体的な取組目標等) |
|-----------|------------------|--|---|------|-------|---|---|
| 健康で明るい子 | 思いを出し たくましく遊ぶ | 遊びや生活の中で、感じたことや思いを、その子なりの方法で表現できている | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者との関係ができ、友達との関わりが増えてきたことにより、自分の思いをそれぞれの表現方法で伝えられるようになってきている。 ・困ったことに対して伝えられない時もあるが、仕草や行動で思いを表現しようとする姿もある | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の立場で見えていくと、評価はAで良いのではないか。できるかできないかではない。遊びをやってみようとする姿は、遠くから見ている子や、友達と一緒にいる子でもなくても体を動かしている子もいる。そういう子たちも、心は動いてやってみようとしており成長しているのではないか | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「やってみよう」「チャレンジしよう」と言う姿から、次につながる環境や関わりを、子どもと一緒に保育者が遊びこむことで考えていく ・子どもが自己肯定感もてるように、保育者が寄り添い丁寧にかかわり信頼関係を築いていく。 ・遊ぶことの楽しさや思いを表すことの喜びを感じられるよう、保育者も一緒に表現し遊びを深めていく |
| | | 自分の良さに気づき、友達の良さを認め合いながら生活する | <ul style="list-style-type: none"> ・友だちが好きで興味をもって関わる子が多く、相手の頑張る姿を認めて生活している ・友だちの良さをみとめあうことを通して、自分の良さにも気づく機会となっている ・異年齢の関わりが増えたことにより、優しく接したり、遊びを一緒に進めていく姿が増えてきている | B | A | | |
| | | 「挑戦しよう」「やってみよう」と様々なものに興味をもち、取り組もうとしている | <ul style="list-style-type: none"> ・新しいことに興味をもち「やってみよう」とする姿はあるが、失敗するとすぐあきらめたり、友達がやらないなら、自分もやらないと慎重な面もある ・前期に比べて、挑戦しようとする子が増えてきて、少しずつ自信をつけ始めている姿がみられる | B | A | | |

II 全体的な計画に関わること

| 大項目 | 中項目 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策(来年度の具体的な取組目標等) |
|------------------|----------------------------|---|--|------|-------|---|---|
| 1 こども園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | 子どもの発達や興味関心を捉え、豊かな体験活動が展開できるように考えている | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心を捉え、今の子ども達には何が必要なのかを考え、環境構成を整えている ・保育者の思いが先走ってしまったり、発達の捉えがおろそかになってしまうことがあった | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・一人で遊んでいる子がおらず、子ども同士で遊びを楽しんでいた | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心を捉え、日誌に記録し次の日の環境構成や保育のポイントを具体的に記入していく |
| | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮 | 職員の共通した援助のもと、子どもが安心して過ごせる環境が整っている | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの保育時間の異なる中で、生活リズムや情緒面に細やかな配慮を心掛けている ・個々の特性を共有し安心して好きな遊びを、室内でも戸外でもできるようにしている | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・環境を作っていたにも関わらず、保育者が一緒になった楽しむ姿が足りない。見守りになってしまっている。共同作業者として、見守りではなく、一緒に遊び、考え、価値づけをしていくことが大切である | <ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムの違いを考慮し、職員全員で共通認識を持ち、環境を整えていく |
| | (3)環境を通して行う教育及び保育 | 保育者が共同作業者となって遊ぶ中で、子どもの「もっとやりたい」の思いにつながる環境を作っている | <ul style="list-style-type: none"> ・週案検討では、その時の子どもに経験させたいことや興味関心に沿った遊びを話し合い、園庭環境図にして可視化し職員が見てもわかり同じ環境を用意できるようにしている ・「共同作業者とは」と園内研修で話し合い、捉え方を共有していくことで、「もっとやりたい」につながる環境の設定を行っている | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・環境を作っていたにも関わらず、保育者が一緒になった楽しむ姿が足りない。見守りになってしまっている。共同作業者として、見守りではなく、一緒に遊び、考え、価値づけをしていくことが大切である | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が子どもと一緒に遊びこみ、興味関心を捉えていく。週案検討deより深く環境設定を検討し、環境図を可視化し職員全体で設定して ・自分の命は自分で守るという意識がもてる安全教育を行っていく ・ヒヤリハットに対する、職員の意識を高めていく |
| 2 安全管理・指導 | (1)事故防止・防災 | 子ども自身が安全に過ごすためにはどうしたらよいか意識がもてるような安全教育を行う | <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に沿いながら、訓練を行ない、子ども達がすぐに行動できるようになってきている ・毎月会議で反省と課題を出し、改善している ・ヒヤリハットに対する意識が職員間で薄い面があるので、ヒヤリハットがあった時すぐに周知できるよう、朝の打ち合わせで報告し改善し危機感を持てるようにしている | B | A | | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が持続できるように、丁寧な見守りをしていく ・楽しい雰囲気の中で食事し、食に対する興味関心を育てていく |
| 3 保健管理・指導 | (1)健康教育の充実 | 基本的な生活習慣が身につく、食に関する興味や関心が育っている | <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な見守りや声掛けで子ども自身から出来るが増えてきている。また、慣れから、雑になる姿もあり習慣づけを引き続き行っていく ・野菜を育て、園で調理し食べることで、食に対する興味関心が少しずつ育っている | A | A | <ul style="list-style-type: none"> ・一本下駄に取り組む姿が印象的であった。大きい子の姿を見て、年下の子どもが真似してみたり、優しく教えてあげたり、異年齢の自然な関わりが見られ社会性も育っていると感じた | <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で多くの意見を出し合い、よりよい支援方法を検討し、共通理解を同じ支援が行えるようにしていく |
| 4 特別支援教育・保育 | (1)支援体制づくりの推進 | 一人一人の発達や特性に合わせた支援体制ができている | <ul style="list-style-type: none"> ・サポートプラン検討会議を通して、一人一人に合った支援方法を共有して、統一した支援につなげた ・サポート面談を通して、家庭とも支援方法を確認したり、相談に乗ったりし保護者も支援している | A | A | | |
| 5 組織運営 | (1)組織体制の充実 | 職員間で情報共有・連携を取り、協力しながら主体的に行動できる職員集団になっている | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の打ち合わせや職員会議の伝達を実施していることで、情報共有している。 ・職員間で声をかけ合い、協力体制になってきている ・急な変更に対して、伝達が不十分なことがあるので、事務室に伝達ボードを置き、些細なことも記載していく | B | A | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校へ入学してから、困る子が少ない。小学校と園との子どもたちの交流が増え、公開保育や授業参観など職員も行き来する機会も多くなり、子どもの様子を見る機会や姿を捉えることがしやすくなってきている | <ul style="list-style-type: none"> ・伝達ボードの活用や会議の報告を確実に行い、職員全員で情報共有を行っていく |
| 6 研修 | (1)研修体制の充実 | 子どもを多面的に捉え、こども理解とかかわりや援助を考察することができるような研究保育を行う | <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育を通して、子どもの姿を捉え、それに対する関わりや援助を皆で見直す機会となった。園内研修で意見が出にくいという前回の課題から、小グループでのグループワークを実施したことにより、意見が出やすくなった | B | B | | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を伝え合う時間を作り、様々な職種の職員で話し合いながら、子どもの実態を捉え、子ども理解を深めていく ・週案会議で、子どもの姿をしっかり捉えて、遊び込める環境や時間の保障など検討していく |
| 7 教育・保育環境整備 | (1)教育・保育環境の充実 | 子どもたちが「もっと遊びたい」「明日も遊びたい」と思えるような環境を整えている | <ul style="list-style-type: none"> ・登園時間の見直しや登園してすぐ遊び出せる環境を作ったことで、子ども達の「もっと遊びたい」につながり、一人一人がやりたいことをみつけ遊ぶ姿につながっている ・クラス会議や週案会議を通して職員間で子どもの姿を話し合い、環境を考え子どもの意欲や試行錯誤する楽しさを引き出した | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションの作り方が違うのではないかと、子どもの成長を通し、保育のやり方を考えていくものである。子どもサイドに立って考えていくと良いのではないかと | <ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションを見直し、子どもサイドに立って作成をする。保護者に園の教育・保育により理解をしてもらえるようにしていく |
| 8 家庭との連携・協力 | (1)家庭教育への支援機能の充実 | 子どもの成長を保護者と共有し、子育てを支えている | <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の送迎時のコミュニケーションを大切に、丁寧に関わっている。 ・ドキュメンテーションを通し、保護者との会話のきっかけし、園の教育保育を知ってもらうようにしている ・参加会・祖父母会などの行事や面談の場でも関わりを大切に、信頼を構築している | B | B | | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の生活科などを通し、交流を図り就学に対する期待を持てるようにしていくと共に、職員も教育を理解していく |
| 9 近隣の学校との連携 | (1)近隣の園との連携の推進 | 同一活動を通して交流を図り、互いの教育を理解し、幼小接続について考えている | <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の生活科のお店屋さんで年長児が招待してもらい、一緒に楽しんだことで、園で自分達の遊びを進めていく姿につながった。 ・運動会の練習を見せてもらったり、校庭を走らせてもらったりしたことで、就学への期待を高める機会になった | A | A | | |
| 10 地域との連携 | (1)信頼される園づくりの推進 | 地域のいろいろな場所や人、もの、ことにかかわり地域に親しみをもてるようにしている | <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会時の公園クイズ、地域の自然クイズがきっかけとし、出かける機会を増やすことで親しみをもつようになってきている ・外部講師の方と一緒に、散歩に出かけることにより子どもだけでなく、職員も地域の自然により深く知るきっかけとなっている | A | A | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に積極的に出かけ、自然や人に親しんだり、興味を持つ機会を増やしていく |